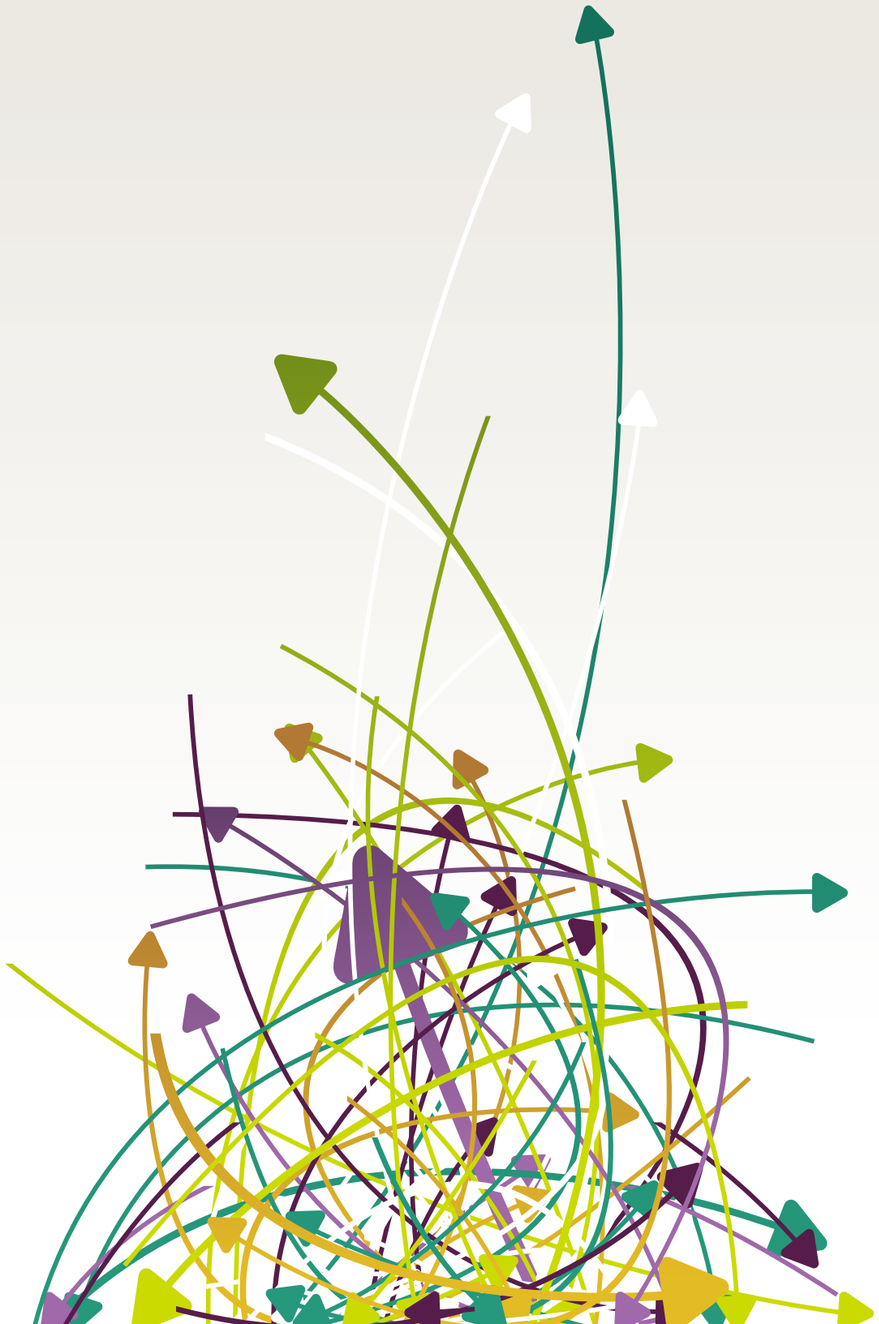
障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査報告書

ダイジェスト版

障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査プロジェクトチーム



障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査報告書　ダイジェスト版

発行日　2017年2月

発行者　日本財団パラリンピックサポートセンター　パラリンピック研究会
〒107-0052　東京都港区赤坂1-3-5 赤坂アビタシオンビル4F

国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）
〒590-0115　大阪府堺市南区茶山台1-8-1

目　次

提言（はじめに） 2

調査概要 3

1 調査の目的
2 調査方法
3 主な調査内容
4 調査実施者

A 個人（障がい当事者）B 福祉施設 4

1 障がいのある人の表現活動
2 障がいのある人の鑑賞
3 劇場や文化施設に対して 意見や希望

C 実演団体 11

1 活動目的
2 運営基盤と規模
3 参加者の障がい種別と活動ジャンル
4 情報発信
5 活動を継続していくうえでの問題

D 劇場・文化施設 16

1 補助犬に対する理解
2 障がい者とのかかわり方と意識
3 鑑賞者の障がい種別
4 自主事業における意識と取り組みの実態
5 劇場・文化施設に求められる取り組み

調査結果の横断比較 21

1 障がい種別鑑賞状況
2 情報の受発信
3 劇場・文化施設の対応
4 ニーズの把握状況
5 表現活動における成果

本文中の凡例　（A個人:IQ1）　→当表記は、調査研究報告書本編（詳細版）の質問ナンバーです。
本編（詳細版）は日本財団パラリンピックサポートセンター　パラリンピック研究会ホームページ　http://para.tokyo/research/
および国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）ホームページ　https://www.big-i.jp/　掲載

はじめに

愛知大学 文学部　准教授　吉野 さつき

芸術文化が人の心や生活を豊かにし、多様性を尊重する社会を育む力を持つことは、すでに多くの人が理解していることです。しかし、障がいのある人を含め、まだ多くの人が、その創造や鑑賞に参加し、それを十分に享受しているとは言えません。

今回の調査では、障がい者の舞台芸術表現・鑑賞において、障がいのある当事者や福祉関連施設のニーズと、舞台芸術創造発信の場である劇場・文化施設が把握しているニーズとのずれや認識の差、鑑賞サポートや情報発信についてもさまざまな課題があることがわかりました。

また、サポートや情報のニーズが、障がいの種別だけでなく生活環境などによっても異なり、「障がい者」として一括りにしない対応が必要であることも明確になりました。

さらに、創造・表現活動への参加やその継続・発展を促すための専門人材が不足していることも判明し、その育成は急務であり大きな課題です。

国の「文化芸術振興基本法」やその基本理念に基づく「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」、さらに2016年に「障害者差別解消法」が施行された今、芸術文化と福祉の両面から、このような現状を改善し、舞台芸術の持つ力を全ての人のために活かすことのできる社会を創るために、今回の調査結果を踏まえて以下を提言します。

提言　芸術文化と福祉をまたぐプラットフォームの創設

芸術文化と福祉の両分野が協働して、人材を育成し、情報を収集・整備・発信し、さらにこれら人材・情報を媒介とするネットワークを構築し、地域やセクターを超えた協働の場が創られるよう、横断的な中間支援を行うプラットフォームが、いま必要とされています。

1. 人材の育成

- 表現や運営のスキル及び活動の質をより高めるためのプログラムや、活動団体などの枠を超えて学び合う場を作り、障がいのあるアーティストと、その活動を支援し協働する専門人材や団体運営者を育成する。
- 劇場・文化施設と福祉関連施設職員の研修や交流も含めた交換留学制度を作り、表現の場と鑑賞の機会を提供する劇場・文化施設の人材と、表現・鑑賞活動をサポートする福祉関連施設の人材を育成する。
- 芸術大学などのアーツマネジメント課程に福祉を、福祉大学などの課程に芸術やアーツマネジメントを取り入れ、芸術と福祉の分野をつなぐマネジメントやサポートの専門人材を育成する。

2. 情報の収集・整備・発信

以下の各種情報を収集、整備して、各方面に向け発信する。

- 障がいのあるアーティストの活動や公演に関して、表現活動や運営を行う個人・団体が発信する情報
- 障がいのある人の鑑賞や参加の機会やサポートに関して、劇場・文化施設が発信する情報
- フェスティバルなどでの上演機会やワークショップなどへの参加機会に関して、事業企画者が発信する情報
- 表現活動や運営、人材育成への支援・助成などに関して、自治体や財団など官民の組織が発信する情報

3. ネットワーク構築

表現活動の現場と劇場・文化施設、福祉関連施設、教育研究機関、事業企画者、官民支援組織、地方自治体などの間をつないで、相互に情報を共有し、意見を交換して、連携・協働のできる関係を作り、人的交流を促すネットワークを構築する。

調査概要

1 調査の目的

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、障がいのある人々による芸術表現活動が全国各地で展開して、多くの障がい者が芸術文化を鑑賞・表現できる持続的な社会づくりの大きな契機となることが、期待されています。

そこで、個人（障がい当事者）、福祉施設、実演団体ならびに官民の劇場や文化施設を対象に、障がい者の舞台芸術表現・鑑賞にかかわる、それぞれの現状、課題とニーズなどを把握し、障がい者による舞台芸術の表現・鑑賞に関する環境整備の具体的な検討を進め、施策や支援策につなげていくことを目的として、実態調査を行いました。

2 調査方法

	A 個人（障がい当事者）	B 福祉施設	C 実演団体	D 劇場・文化施設
対　象	国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）※1の登録者※2 4536件、登録施設※3 2567件		公演活動を行っている舞台芸術分野の実演団体※4 60件	公立文化施設協会加盟1288件並びに非加盟1097件
回答数（回収率）	208件（4.6%）	341件（13.3%）	44件（73.3%）	665件（27.9%）
方　法	郵送法		メール法	郵送法
時　期	2016年 8月～9月			

※1 「国連・障害者の十年（1983～1992年）」を記念して、2001年に厚生労働省が、障がい者の「完全参加と平等」の実現を図るシンボル的な施設として設置。障がいの有無に関わらず国際交流活動や芸術・文化活動の場として、先端的な取組みを行う。
※2 本人（障がい当事者）が回答できない場合は、保護者もしくは支援者が記入。
※3 福祉関連施設（通所、入所、相談施設）、医療関連施設、教育機関、企業、サークル、情報提供施設など。
※4 障がいのある人とともに不特定多数の観客に向けた作品制作を行う団体。子どもが主たる活動参加者のケースを除く。

3 主な調査内容

A 個人（障がい当事者） B 福祉施設	C 実演団体	D 劇場・文化施設
鑑賞機会の状況	表現活動の状況	設備状況
公演施設でのサポート状況	活動の分野、形態	運営体制
鑑賞上の課題やニーズ	活動の成果	研修の実施状況
表現活動の状況	活動上の課題や工夫	障がい者の施設利用状況
表現活動上の課題やニーズ	運営体制、収支	障がい者へのサポート状況
鑑賞や表現を通じた成果		取組の成果

4 調査実施者

障がい者の舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査プロジェクトチーム

特定非営利活動法人スローレーベル　秋元 千枝
株式会社リアライズ　バリアフリーイベントディレクター　南部 充央
公益社団法人全国公立文化施設協会　理事・アドバイザー　間瀬 勝一
東京藝術大学　特任研究員　村田 博信
愛知大学　文学部　准教授　吉野 さつき
日本財団パラリンピックサポートセンター　パラリンピック研究会
上級研究員　佐藤 宏美／矢島 佳子／石岡 亜希子
国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）
事業プロデューサー　鈴木 京子／上岡 亜希

A 個人（障がい当事者） B 福祉施設

個人、福祉施設の調査から見えてきたことは、表現活動、鑑賞ともに参加できる環境があれば舞台芸術に触れる機会を持ちたい人たちが、たくさんいるということでした。

障がいに対応した環境づくり（サポート）を考えるうえで、調査結果からも読み取れるよう、障がいの種別は多様であり、障がいに応じたニーズや希望も多様です。

また、福祉施設で表現活動や鑑賞する場合と、個人で表現活動や鑑賞する場合では、ニーズに差がみられます。障がいのある人の日常の環境によっては、求められるサポートも変わるということです。

「障がい」ということをステレオタイプに見ないこと---障がい種別だけでサポートを判断するのではなく、個々の希望やニーズを把握して、何が活動や参加の障害になっているのか、現状の環境に視点を置くことが重要であると考えます。

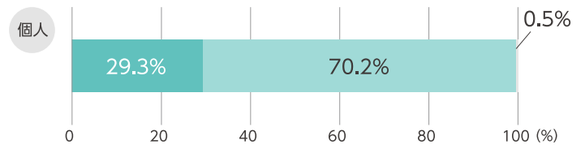
■ 国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）　事業プロデューサー　鈴木 京子

1 障がいのある人の表現活動

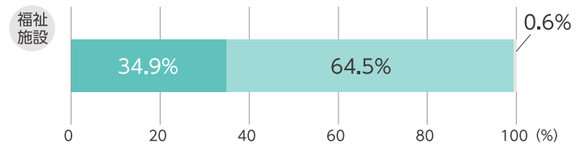
（1）舞台芸術の表現活動を行っていますか？（A個人:IQ1）
障がいのある人の舞台芸術の表現活動を行っていますか？（B福祉施設:IIQ1）

障がいのある人たちの舞台芸術表現活動においては、個人での活動が29.3%（61件）、福祉施設は34.9%（119件）と双方ともに予想していた数値よりも高い結果が見られました。

舞台芸術の表現活動を行っていますか？（A個人:IQ1）
有効回答数：208件
■ はい　■ いいえ　■ 無回答／わからない



障がいのある人の舞台芸術の表現活動を行っていますか？（B福祉施設:IIQ1）
有効回答数：341件
■ はい　■ いいえ　■ 無回答／わからない

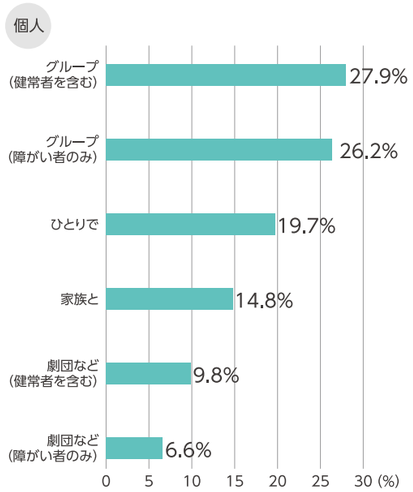


（2）表現活動は誰としていますか？（A個人:IQ8）
主に活動しているメンバーについてお答えください〈複数回答可〉（B福祉施設:IIQ5）
指導者はどのような方ですか？〈複数回答可〉（A個人:IQ9）
指導者はいますか？（B福祉施設:IIQ6）

活動をともにするメンバーや指導者については、個人と福祉施設では、それぞれに特徴がみられます。

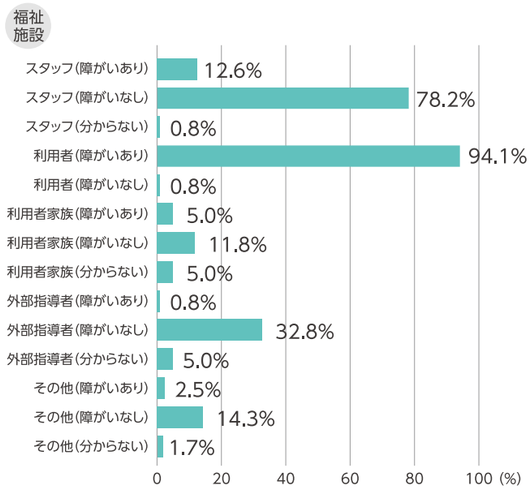
個人では、ともに活動するのは身近にいる友人や知人、劇団など、指導者についても専門家や芸術活動支援団体など、健常者を含んだグループでの活動が中心で多様な人との関わり、地域内の交流も伺えます。

一方、福祉施設は、活動メンバーは利用者や職員が多く、また施設の職員、教員などが指導者となっています。練習や発表の場においても、個人では地域の劇場・文化施設の利用が多くみられますが、福祉施設では施設内での発表という回答が最も多くなりました。このことから、福祉施設での活動は地域の劇場・文化施設や舞台芸術活動団体、専門家等の交流がほとんどないと考えられます。



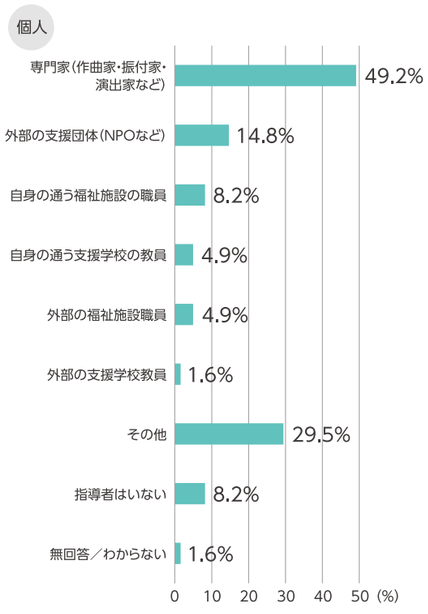
表現活動は誰としていますか？（A個人:IQ8）

有効回答数：61件（ただし複数回答7件）



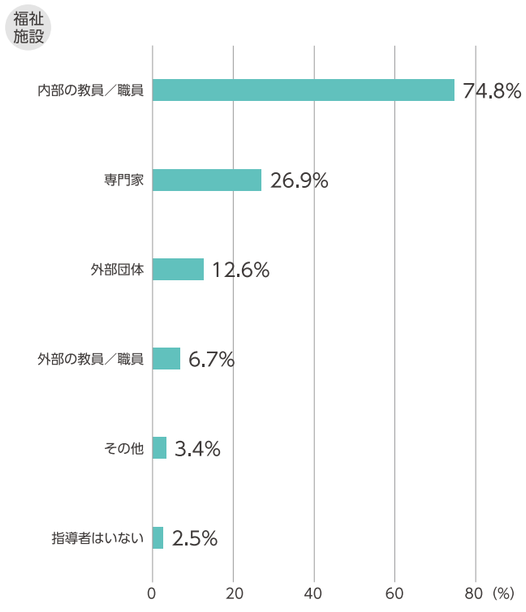
主に活動しているメンバーについてお答えください。（B福祉施設:IIQ5）

有効回答数：119件



指導者はどのような方ですか？（A個人:IQ9）

有効回答数：61件



指導者はいますか？（B福祉施設:IIQ6）

有効回答数：119件

（3）障がいに対応したサポートを受けていますか？（A個人:IQ4）活動していくうえで、障がいに対応したサポートをしていますか？（B福祉施設:IIQ17）

活動するうえで受けるサポートの多くは活動場所、活動時の移動や外出支援が突出しています。活動するためには、移動支援のあることが大きなポイントになると考えられます。

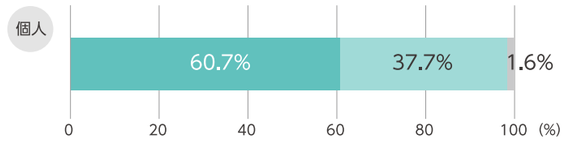
一方、福祉施設が活動するうえでのサポートについては、視覚情報、音声情報など障がいに応じた情報保障やコミュニケーション支援など、意思疎通や情報を届ける方法などのサポートが多く、練習方法や作品内容などプログラムづくりの工夫もされていました。

また、福祉施設では支援スタッフが日常的に近くにいることからサポート環境が整っていると言えますが、個人に関しては、37.7%（23件）の人はサポートのない環境で表現活動を行っています。

障がいに対応したサポートを受けていますか？（A個人:IQ4）

有効回答数：61件

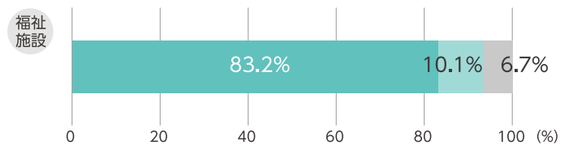
■はい ■いいえ ■無回答／わからない



活動していくうえで、障がいに対応したサポートをしていますか？（B福祉施設:IIQ17）

有効回答数：119件

■はい ■いいえ ■無回答／わからない



受けているサポート内容（自由記述より抜粋）

個人

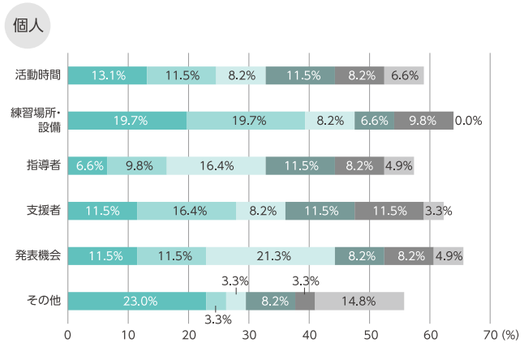
- ガイドヘルパー（外出、移動支援）。
- 市立の障害者センターの施設（部屋）を利用させてもらっている。

福祉施設

- 外出、移動支援。
- 台詞の工夫、衣装の工夫など。
- 楽譜の拡大コピーなど見えにくさを補う工夫。
- 指導の際、視覚的に理解をしたり、わかりやすい合図のようなものを作る。
- 点字の歌詞カード作成、パートCDの作成等。
- 楽器演奏をしやすいような補助具や台の工夫。

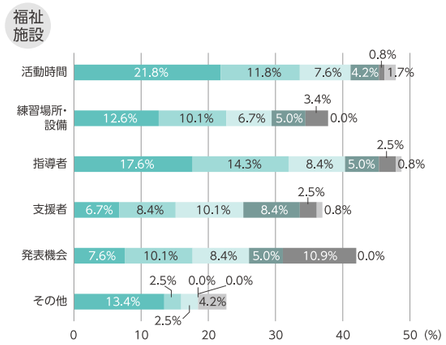
(4) あなたが活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか？（A個人:IQ18）
活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか？（B福祉施設:IIQ18）

活動を継続するうえでの問題を個人、福祉施設と比べてみると、個人の場合は、練習場所や設備が問題の第1位として挙げられ、福祉施設では、活動時間が第1位、指導者が第2位となっています。前述(2)にあるように福祉施設での活動の多くは、職員が指導者となっていることから、業務の中で時間を確保するのが困難であることや、専門性のある指導者を求めていると伺えます。



あなたが活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか？
（A個人:IQ18）

有効回答数：52件
※問題を抱えている個人に注目し、その実態を把握するため「該当なし」を除外しています。



活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか？
（B福祉施設:IIQ18）

有効回答数：95件
※問題を抱えている施設に注目し、その実態を把握するため「該当なし」を除外しています。

1位　2位　3位　4位　5位　6位

2 障がいのある人の鑑賞

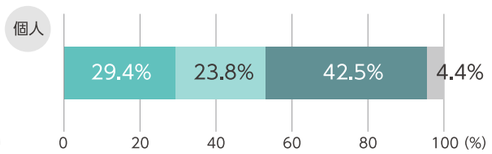
(1) 地域の劇場や文化施設では障がいに応じたサポートを受けましたか？（A個人:IIQ8）
地域の劇場や文化施設を利用したとき、障がいに応じたサポートは受けましたか？（B福祉施設:IIIQ5）

サポートを受けたと回答した人が個人で29.4%（47件）、福祉施設でも半数以上（75件）となっていますが、具体的にどのようなサポートを受けたかという問では、車いす席や障がい者用トイレ、駐車場の確保など、ハード面、設備に関する回答が多くみられました。

反面、サポートを受けなかったが欲しかったサポートの回答では、わかりやすい表示、字幕、劇場・文化施設側のスタッフの増員など、人やソフトに対する要望が多いのが特徴的です。

地域の劇場や文化施設では障がいに応じたサポートを受けましたか？（A個人:IIQ8）

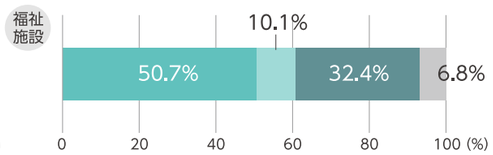
有効回答数：160件



はい　いいえ　サポートは不要だった　無回答／わからない

地域の劇場や文化施設を利用したとき、障がいに応じたサポートは受けましたか？（B福祉施設:IIIQ5）

有効回答数：148件



はい　いいえ　サポートは不要だった　無回答／わからない

受けたサポート（自由記述より抜粋）

個人
- 座席への案内。
- 車いす席、車いすへの案内。
- 駐車場の確保。
- 手話通訳、字幕など。

福祉施設
- 車いす移動の補助、場所の確保など。
- 車いすの用意。
- 弱者への配席の配慮・手話通訳。
- 車いす駐車場の確保、入退場の配慮。

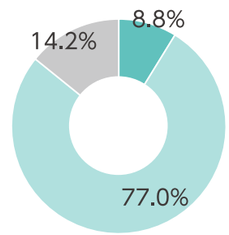
欲しかったサポート（自由記述より抜粋）

個人
- すうじ、ろうまじがわからないため、おしえてほしかった。
- 親子室等、別室で鑑賞したかった（障がい当事者は、大人なので無理）。
- 声かけ、絵カード、写真、画像、イヤマフ（イヤーマフラー）をみても変と思わない心。
- 音声ガイド。
- 視覚・聴覚障がいへのサポート配慮。

福祉施設
- 車いすのサポート。
- 座席の位置。
- わかりやすい表示があれば、通路を選ぶことができてよかった。
- 職員（スタッフ）配置、増員。
- 手話、字幕など聴覚障がい者でも楽しめるような環境整備。

(2) 地域の劇場や文化施設での鑑賞において、文化施設スタッフが対応できなかったことはありますか？（B福祉施設:IIIQ6）

劇場・文化施設でスタッフが対応できなかったことについては、数は少ないながらも車いすだけに限らず、様々な障がいに応じた対応が必要とされていると考えられます。



地域の劇場や文化施設での鑑賞において、文化施設スタッフが対応できなかったことはありますか？（B福祉施設:IIIQ6）

有効回答数：148件

ある
ない
無回答／わからない

- 視覚障がいの方が単独で行った時に、車いすにのせられそうになった。
- 補助犬が複数いたが座席がランダムだったので少し混乱していた。
- 文字情報がなかった。
- 聴覚障がい者でもわかる案内を求めたが、そのあたりは「できない」と謝りながら言ってきた。
- 駐車場の確保をしてもらう予定だったが、してもらえなかった。
- 車いすでは見にくい位置を指定された。
- コンサートで声が出てしまった時に、退席せざるを得なかった。

（自由記述より抜粋）

(3) 地域の劇場や文化施設での鑑賞に関して、相談したことはありますか？（A個人:IIQ12／B福祉施設:IIIQ10）

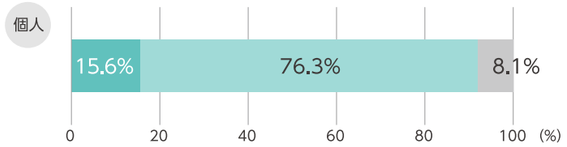
相談したことがないという回答は個人、福祉施設とも約76%（それぞれ122件、112件）でしたが、その理由については、個人は「困っているけど相談しなかった」、福祉施設では「困っていないので相談しなかった」と対照的でした。

福祉施設では、招待による鑑賞機会や団体での鑑賞であることから、事前打ち合わせなどによって、どのような障がいのある人が鑑賞に来るのか、サポートが必要かなど、事前に劇場・文化施設側に情報が届いているのも困らなかった理由であると思われます。

鑑賞するうえで事前にニーズを伝える、受け取ることが、鑑賞できる環境づくりに重要だと考えられます。

地域の劇場や文化施設での鑑賞に関して、
相談したことはありますか？（A個人:ⅡQ12）

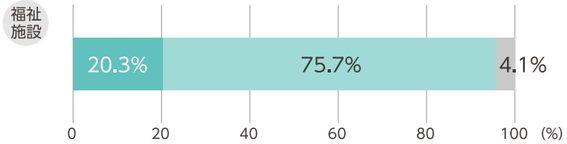
有効回答数：160件



■ある　■ない　■無回答／わからない

地域の劇場や文化施設での鑑賞に関して、
相談したことはありますか？（B福祉施設:ⅢQ10）

有効回答数：148件



■ある　■ない　■無回答／わからない

相談しなかった理由（自由記述より抜粋）

個人

- 希望を話せない。
- 相談しても、理解してくれないだろうと思っている。
- わからないから。
- 相談先が分からない。
- 相談出来る人が居なかった。
- 相談にのってくれない。
- 地域では、参加しにくい為、他の人の迷惑にならないかと?
- 事前に調べ大丈夫な劇場・文化施設にのみ参加している。

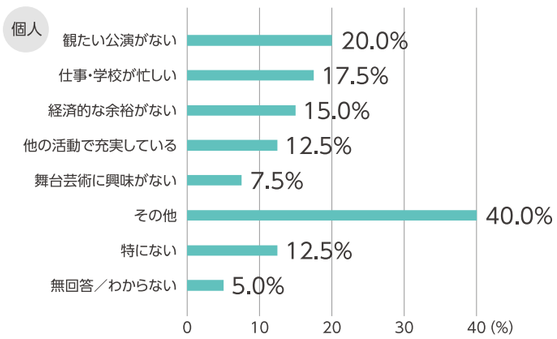
福祉施設

- 特に不自由さはない。
- 担当との打合せで済んだため。
- 先方から案内をいただいて実施することが多いから。
- ご招待していただくことが多いので、言いにくい。
- 市内の劇場(音楽ホール)は、使い慣れているので、車いすの人にも慣れている。
- 利用者様からの要望がなかったため。
- 年1回程度の鑑賞だから。

(4) 地域の劇場や文化施設で鑑賞しない理由は何ですか?〈複数回答可〉（A個人:ⅡQ15）

鑑賞しない理由については、「その他」という回答が最も多く、具体的には、障がいの特性への理解不足、情報が受け取れていないこと、また、移動が困難であるという回答が目立ちました。

障がいへの特性を考えたプログラムや情報の届け方の工夫によっては、新たな観客層を創出することも可能であると考えられます。



地域の劇場や文化施設で鑑賞しない理由は何ですか?（A個人:ⅡQ15）

有効回答数：40件

その他

- 静かにできない（奇声など声が出ます）ため、まわりの迷惑になってしまうから。
- 常に声が出る、動き回る、その事で気をつかう、出たり入ったりすることもある。
- 付添を探さないといけない事とまわりの理解。
- そこまで行く送迎がない。
- 劇場・文化施設などで行われる公演その他情報がない。
- 情報が入らないため。
- 鑑賞する機会がない。

（自由記述より抜粋）

3 劇場・文化施設に対して 意見や希望（自由記述より抜粋）

個人

- ネット予約の際の車いす席の指定。
- チケットの買いやすさ、駐車スペースの確保。
- 音声補聴（磁気ループ、赤外線補聴システム）などの充実。
- 別室で鑑賞できると嬉しい（大人になった障がい者でも）。
- 待てない。大きな声を出してしまったり、走ってしまったり、てんかん発作がでたり、障がいは、1人1人ちがいます。それでも文化（音楽等）を楽しみたい!という気持ちはあり、心の発達につながります。「特別扱い」というより、「その人が鑑賞できるためには」ということを共に考えて改善していってほしいと思います。
- 障がい者向けのサービスがあることは、一般的な情報としては、入ってこない。周知する方法を考えてもらいたい。
- イベントのお知らせを早く教えてもらえたら、外出の計画を立てて、見に行けるので、早く教えてほしい。
- 情報入手法が知りたい。

福祉施設

- 障がい者の舞台芸術表現を近くの劇場や文化施設でしてほしい。
- 本物の芸術文化に触れる場として、今後、検討していく必要があると考える。
- 学校で予算があればどんどん劇場や文化施設に行きたいところです（できれば、料金が安かったり行きやすいところにあると嬉しいです）。
- 車の乗降スペースをしっかり確保してほしい。
- 手話通訳者の同伴を相談したところ入場を断られたと、相談に来られた聴覚障がい者がいます。障がいに応じて様々な対応が必要だということを劇場や文化施設関係者にも理解して欲しいです。
- 体験や参加型など聾者も楽しめるような内容があるといいなと思います。
- 朝の送迎、夕方の送迎時間に支障なく鑑賞ができる時間であること。
- こちらが移動して観に行きやすい状況ではありません。こちらの福祉施設に来ていただいて上演してもらうなどの鑑賞の機会を紹介してもらえるならとてもうれしいです。
- 見えづらい、見えない方が座席までの案内や安全な移動が確保され、舞台芸術を視覚に障がいがあっても楽しめる工夫があると良い。
- 障がい者が暮らす、地域の劇場は都市のため、比較的、鑑賞しやすいサポートがありますが、魅力的な小劇場では、まだまだ難しい状況です。しかし、ハードの整備ではなくソフト（人的支援）でカバーできることがほとんどあり、この部分をどう社会に伝えていくかが、今後の課題であると思われます。ビッグ・アイの様な問題提起が各地で高まっていくことを期待しております。

C 実演団体

障がいのある人々とともに舞台芸術作品を制作し、不特定多数の観客に向けた公演活動を行っている全国の団体（子どもが主たる活動参加者である場合を除く）73件をリストアップしましたが、13件についてはコンタクトした結果、調査の対象に該当しないこと（活動停止を含む）が判明しました。そこで、60件にアンケート票を送付し、44の団体から回答を得ました。

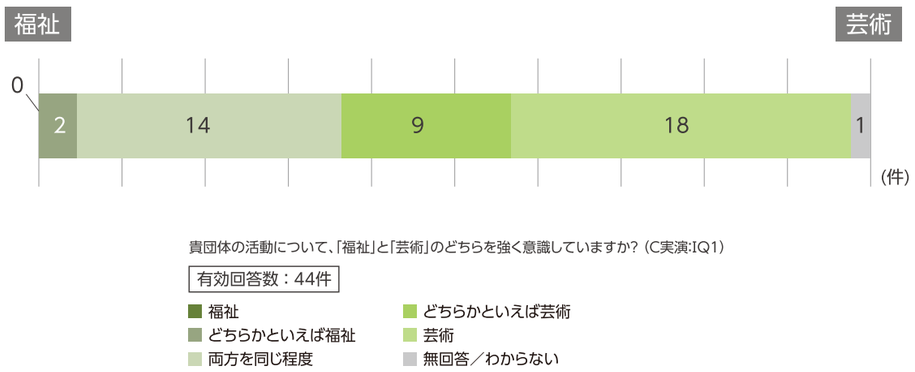
調査の結果、「社会変革」や障がいのある人の「社会参加」など、多様性のある豊かな社会づくりを具体的な目的として、芸術活動と位置づけて、活動する実演団体が多いことがわかりました。団体の規模が小さく基盤がぜい弱なことは一般的な実演団体の多くと共通する特徴と言えるかもしれませんが、障がいのある人が参加していることによって、活動に使用できる場所が限定される、舞台芸術以外のノウハウも必要になるなど、健常者だけの活動以上に解決すべき問題が多いようです。さらに、9割以上の団体が「予算」と「人材」の不足を訴えていること、具体的なニーズとしては、舞台芸術や福祉の専門性以上に、経営や運営にかかわる「人材」と「ノウハウ」を強く求めていることが、明らかになりました。

■ 日本財団パラリンピックサポートセンター　パラリンピック研究会　上級研究員　佐藤 宏美

1 活動目的

（1）貴団体の活動について、「福祉」と「芸術」のどちらを強く意識していますか？（C実演:IQ1）

活動の性格では、40.9%（18件）が「芸術」、20.5%（9件）が「どちらかといえば芸術」と回答しました。一方の「福祉」は0.0%（0件）で、「どちらかといえば福祉」が4.5%（2件）でした。また、「両方を同じ程度」は31.8%（14件）でした。このことから、全ての団体が多かれ少なかれ芸術を意識していることがわかりました。



（2）活動目的は何ですか？ 定款などがあれば、その通りに記述してください。（C実演:IIQ5）

定款などに記された活動目的でも、これに符合する傾向が見られ、「芸術」を掲げる団体が84.1%（37件）であるのに対し、「福祉」を掲げる団体は6.8%（3件）でした。「芸術」を掲げる団体の活動対象としては、「障がい者を主体とする」団体が16件、「障がい者と非障がい者を主体とする」団体が14件と、件数がほぼ近似します。

芸術を手段として位置づける団体は29件で、手段の内容としては「社会変革」（13件）、「コミュニケーション」（10件）、「社会参加」（8件）、「学び」（7件）、「心身の維持・向上」（4件）などがありました。芸術を目的として位置づける団体は20件で、その内容としては「挑戦」（10件）、「発信」（9件）、「創造・向上」（8件）、「享受」（5件）などがありました。

2 運営基盤と規模

（1）団体の運営形態について教えてください。（C実演:IIQ1）

団体の組織形態は、任意団体が34.1%（15件）、NPO法人が27.3%（12件）、社会福祉法人が13.6%（6件）でした。

（2）設立年を西暦でお答えください。（C実演:IIQ4）

設立時期は、1996～2005年の10年間が最も多く、43.1%（19件）に達します。特に、1999～2001年の3年間で10件が設立されました。最も歴史の長い団体は1970年に設立されたもので、活動期間は46年に及びます。近年では2014年に3件、2015年に1件が新たに設立されています。

（3）主たる活動を行う都道府県は、どこですか？〈複数回答可〉（C実演:IIQ3）

活動の拠点は、東京都が22.8%（10件）を占め、神奈川、愛媛、福岡が各4件でこれに続きます。地域としては、関東に16件、九州に7件、近畿と中部に各5件、四国に4件、中国に3件、東北に2件分布しています。なお、北海道、沖縄県、関越・北陸地方など、22の道県に拠点を置く活動団体はありませんでした。

（4）活動を行う場所をもっていますか？（C実演:IQ2-1）
どこを借りていますか？〈複数回答可〉（C実演:IQ2-2）

日常的な活動場所をもっている団体は、59.1%（26件）ありました。一方、活動場所をもたない団体の3分の2は、地域の公共文化施設を活動に利用していることがわかりました。

（5）活動に携わる人は全部で何人いますか？（アーティスト、指導者、運営者、支援者などを含めて〈障がいのある人を含む〉）（C実演:IQ10-1）
フルタイムで携わる人は何人ですか？（C実演:IQ10-2）
フルタイム以外で、恒常的に携わる人は何人ですか？（C実演:IQ10-4）
フルタイム以外で、上演の時だけ携わる人は何人ですか？（C実演:IQ10-3）

活動に携わる総人数は、平均20人でした。そのうち、フルタイムで携わる人は4人、フルタイム以外で恒常的に携わる人は6人、上演の時だけ携わる人は5.3人でした。常勤・非常勤とも10人以下が65%以上を占めていることから、大半の団体が小規模であることがわかります。

（6）収入総額（経常収益など）約（おおよそ）（C実演:IIQ6-1）
支出総額（経常費用など）約（おおよそ）（C実演:IIQ6-2）
収入のおおよその内訳（C実演:IIQ6-3）
支出のおおよその内訳（C実演:IIQ6-4）

2015年度決算の収支総額の平均※は、収入が800万円、支出が750万円でした。収支とも50万円以下の小規模な団体が約22.0%（12件）に達します。この数値は、障がいのある人との芸術活動以外を含む、団体の活動全般の金額であることから、全般的に組織規模の小ささがうかがわれます。収入の内訳としては、平均で50.5%が事業収入から、4.0%が補助金・助成金・協賛金から得られていました。支出における事業費の比率は平均90.0%、管理費の比率は10.0%でした。事業費の30.0%が人件費に充てられていますが、管理費から配分される人件費は0.0%でした。管理費はほとんど人件費に充てられていないようです。

※平均:全体の数値のちょうど中間に位置する値としての「中央値」を、便宜的に「平均」と表記しています。それは、団体間の数値の差が大きく、平均値が吊り上がってしまうことから、「平均=中間」という実感覚に近い「中央値」を示した方が、実態をつかみやすいと考えたためです。

3 参加者の障がい種別と活動ジャンル

（1）参加者の障がい種別について教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ3）

参加者の障がいの種類としては、知的障がいを対象とする団体が63.6%（28件）、身体障がい52.3%（23件）、発達障がい38.6%（17件）、聴覚障がい31.8%（14件）、精神障がい22.7%（10件）、視覚障がい6.8%（3件）の順となりました。過半数の団体が複数の障がい種別を対象としており、そのほとんど（24件中23件）が、知的障がいと他の障がいとの組み合わせです。

（2）活動のジャンルについて教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ4）

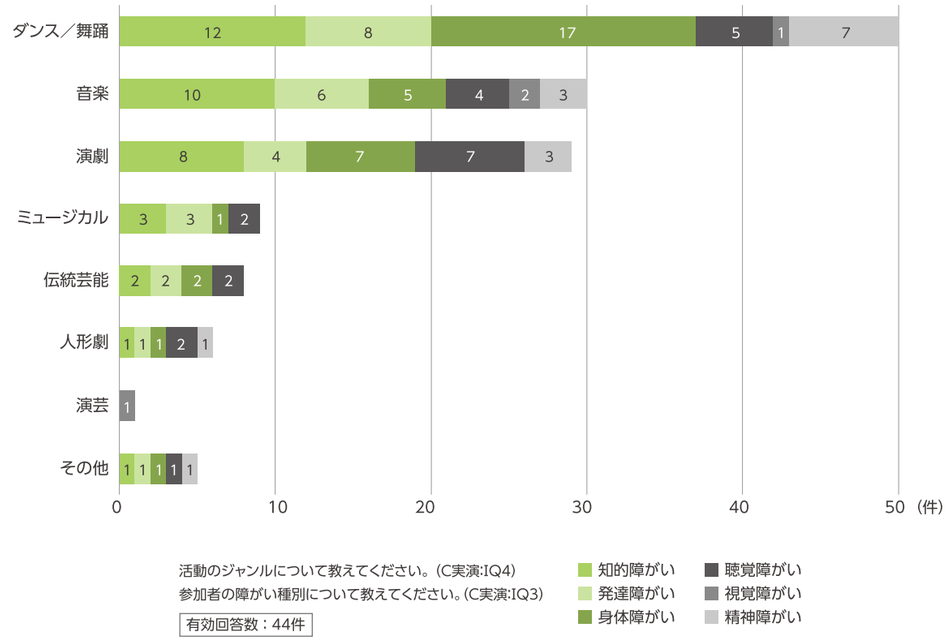
活動ジャンルは、ダンス・舞踊が47.7%（21件）で最多でした。内訳では、コンテンポラリーダンスと車いすダンスが多数を占めています。第2位は音楽で34.1%（15件）で、うち9件が太鼓です。狂言、神楽、能などの伝統芸能を行う団体は、6.8%（3件）にとどまっています。複数のジャンルにまたがる団体が27.3%（12件）に及びます。

ジャンル	件数	割合	詳　細
ダンス／舞踊	21	47.7%	コンテンポラリーダンス（7）、車いすダンス（4）、即興ダンス（2）、社交ダンス（2）、即興パフォーマンス（1）、ストリートダンス（1）、インクルーシブダンス（1）、手話パフォーマンス（1）、競技ダンス（車いす）（1）
音楽	15	34.1%	太鼓（9）、楽器（5）、歌（5）、即興音楽（2）
演劇	14	31.8%	
ミュージカル	5	11.4%	
伝統芸能	3	6.8%	狂言（2）、神楽（1）、能（1）
人形劇	2	4.5%	
演芸	1	2.3%	
その他	1	2.3%	サーカス（1）

※複数回答のため、件数欄の数値と詳細欄の数値は一致しません。

（3）活動のジャンルについて教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ4）×参加者の障がい種別について教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ3）［クロス集計］

活動ジャンルごとに参加者の障がいの種別をみると、ダンスおよび音楽には、すべての障がい種別の人々が参加しているうえに、件数も多いことがわかります。これらは、障がいのある人が参加しやすいジャンルと言うことができそうです。また、知的障がいおよび聴覚障がいのある人の表現活動への参加は相対的に多く、すべてのジャンルにわたっています。一方、視覚障がい者の参加は数が少なく、ジャンルもダンス、演芸、音楽に限られています。ジャンルと障がいの間、障がい種別の間に、相性の良し悪しのようなものがあると考えられます。



4 情報発信

活動に関する情報発信の方法を教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ8）
外国語でどのように情報を発信していますか。〈複数回答可〉（C実演:IQ9）

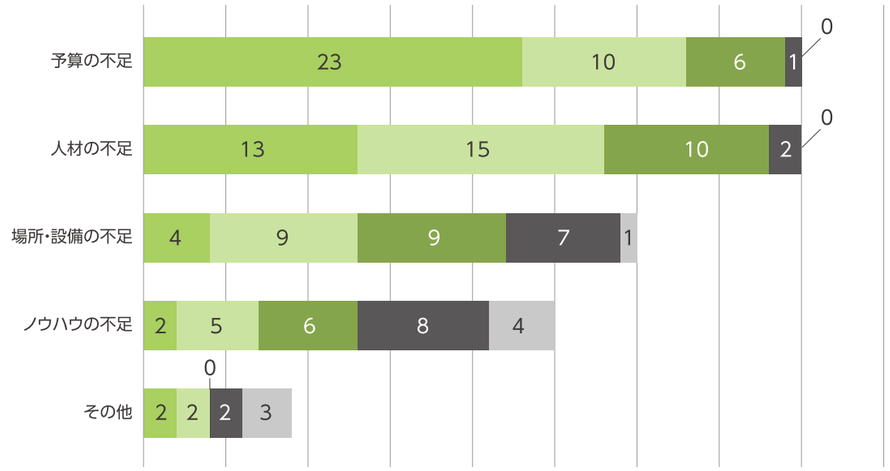
情報発信の方法は、チラシ・ポスターが75.0%（33件）で最も多く、ホームページ70.5%（31件）、口コミ68.2%（30件）とつづきます。また、SNS、新聞、情報誌、ウェブマガジンなど外部の媒体、DM（ダイレクトメール）、ML（メーリングリスト）もそれぞれ45.5%（20件）を越え、複数の方法が用いられていることがわかります。

外国語で情報発信を行う実演団体はわずか18.2%（8件）にとどまります。

5 活動を継続していくうえでの問題

（1）活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか。もっとも深刻なものから順に最大5位まで選んでください。該当がない順位は空欄としてください。（C実演:IQ13-1）

過半数（52.3%、23件）の団体が、「予算」の不足を最大の問題として挙げています。これに次いで強く不足が訴えられているのは、「人材」です。「予算」については75.0%（33件）、「人材」については63.6%（28件）の団体が第2位までに挙げ、第4位までを見ると、どちらも、90.9%（40件）の団体が問題を感じています。「場所・設備」と「ノウハウ」の不足も多く挙げられていますが、その深刻度は相対的には低いようです。



活動を継続していくうえで、何が問題になっていますか。
もっとも深刻なものから順に最大5位まで選んでください。
該当がない順位は空欄としてください。（C実演:IQ13-1）

有効回答数：44件
※問題を抱えている団体に注目し、その実態を把握するため「該当なし」を除外しています。

1位　2位　3位　4位　5位

（2）ノウハウの不足に関して、もっとも深刻な問題はどれですか。（C実演:IQ13-2）
人材の不足に関して、もっとも深刻な問題はどれですか。（C実演:IQ13-3）
予算の不足に関して、もっとも深刻な問題はどれですか。（C実演:IQ13-4）

「予算」の不足の具体的な内容としては、「舞台芸術活動にかかる人件費」29.5%（13件）、「運営スタッフの人件費」20.5%（9件）と、人件費関係を挙げる団体が目立ち、上演関係費、移動・運搬費、事務局維持費などそれ以外の回答は少数でした。「ノウハウ」と「人材」のいずれでも、不足の具体的な内容としては、舞台芸術や福祉の専門性以上に、経営・運営に関する問題が目立ちました。

D 劇場・文化施設

多くの劇場・文化施設が「障がいのある人は劇場や文化施設に訪れている」「障がい者対応で困っていない」という認識を持っていることがわかりました。しかし、事業別に訪れている障がい種別や求められたサポートの内容を見てみると、そのほとんどは車いす利用者であることが判明しました。

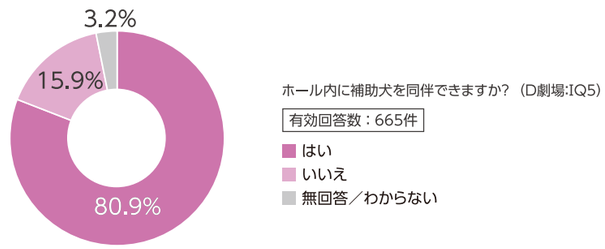
劇場・文化施設が、車いす利用者以外の障がい者も訪れることのできる環境づくりに取り組んでいくためには、多様な障がい者のニーズを知ることが必要であると思われます。

■ 株式会社リアライズ　バリアフリーイベントディレクター　南部 充央

1 補助犬に対する理解

ホール内に補助犬を同伴できますか？（D劇場:IQ5）

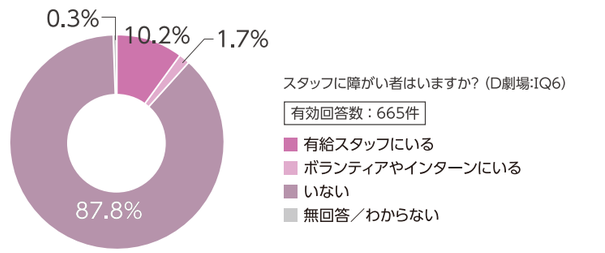
ホール内に補助犬を同伴できない劇場・文化施設が15.9%（106件）もありました。補助犬に対する正しい理解が必要です（身体障害者補助犬法）。



2 障がい者とのかかわり方と意識

（1）スタッフに障がい者はいますか？〈複数回答可〉（D劇場:IQ6）

障がいのあるスタッフがいる劇場・文化施設は11.9%（79件）と少ない結果でしたが、「いる」と「いない」では意識に差があることがわかりました。



(2)

スタッフに障がい者はいますか?〈複数回答可〉(D劇場:IQ6) × 障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修について2015年4月以降の研修の実施状況についてお答えください。(D劇場:ⅡQ1-1)

障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか? (D劇場:ⅢQ6-1)

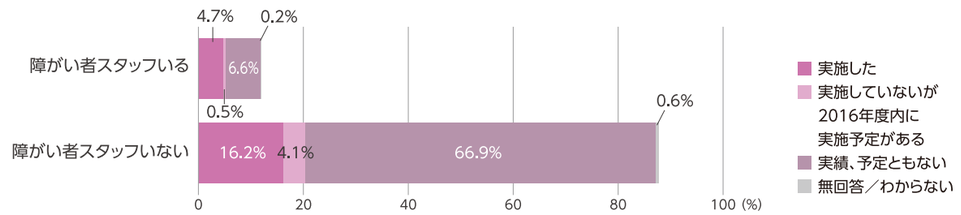
障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか? (D劇場:VQ2)

[クロス集計]

2015年4月以降に障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修を「実施した」劇場・文化施設は20.9%(139件)、「実施していないが2016年度内に実施予定がある」は4.6%(30件)でした(D劇場:ⅡQ1-1)。これを、障がいのあるスタッフが「いる劇場」と「いない劇場」で比べた場合、実施率は2倍近くの開きがあることがわかりました。

同様に、鑑賞サポート付き公演やニーズを知るための取り組みの実施状況においても、「いる劇場」が「いない劇場」を上回る結果が得られました。

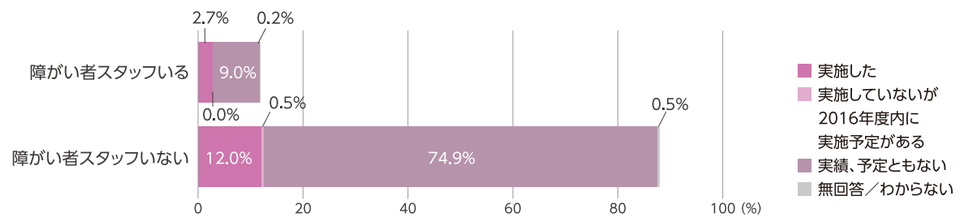
研修実施率



スタッフに障がい者はいますか?(D劇場:IQ6)
障がいのある人に対するサポートや理解に関する研修について
2015年4月以降の研修の実施状況についてお答えください。(D劇場:ⅡQ1-1)

有効回答数:665件
※障がい者スタッフ:ボランティア・インターンを含みます。

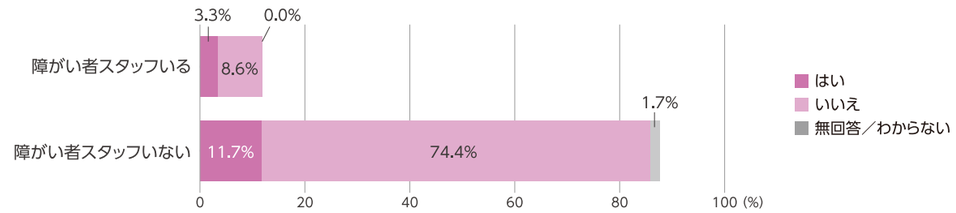
鑑賞サポート実施率



スタッフに障がい者はいますか? (D劇場:IQ6)
障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか? (D劇場:ⅢQ6-1)

有効回答数:665件
※障がい者スタッフ:ボランティア・インターンを含みます。

ニーズを知る取り組みの実施率



スタッフに障がい者はいますか? (D劇場:IQ6)
障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか? (D劇場:VQ2)

有効回答数:665件
※障がい者スタッフ:ボランティア・インターンを含みます。

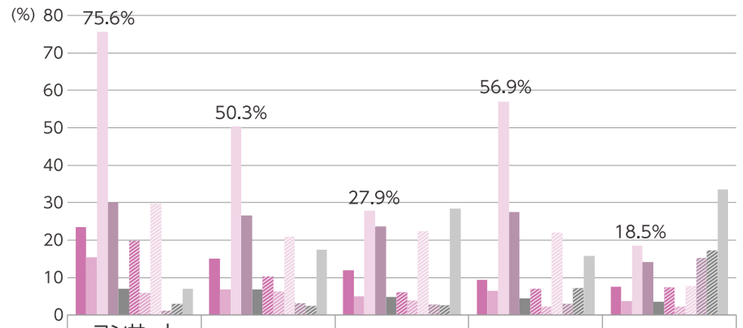
3 鑑賞者の障がい種別

障がいのある人たちは、公演(自主・共催・貸館事業を含む)に鑑賞に来ていますか? (D劇場:ⅢQ1-1)
どのような障がい種別の人が鑑賞しているか、事業ごとにお答えください。〈複数回答可〉(D劇場:ⅢQ1-2)

「障がいのある人たちは、公演(自主・共催・貸館事業を含む)に鑑賞に来ていますか」で「はい」と答えた劇場・文化施設は89.3%(594件)。「いいえ」は0.9%(6件)。「わからない」は9.5%(63件)でした。ほとんどの劇場・文化施設が、障がいのある人たちは訪れているという認識を持っていることがわかりました。しかし、事業別に訪れている障がい種別を見てみると、身体障がい(車いすあり)の割合がどの事業においても高いことから、劇場・文化施設は障がい者として、車いす利用者を強く認識している可能性が高いと思われます。

障がいのある人たちは、公演(自主・共催・貸館事業を含む)に鑑賞に来ていますか? (D劇場:ⅢQ1-1)
どのような障がい種別の人が鑑賞しているか、事業ごとにお答えください。〈複数回答可〉(D劇場:ⅢQ1-2)

有効回答数:594件



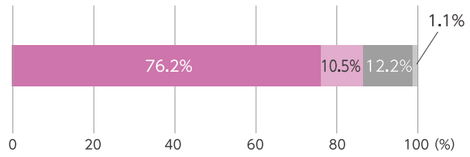
	コンサート公演	演劇公演	ダンス公演	落語、講演会	ワークショップ
1 知的障がい	23.4%	15.0%	12.0%	9.4%	7.6%
2 発達障がい	15.5%	6.9%	5.1%	6.4%	3.7%
3 身体障がい(車いす有)	75.6%	50.3%	27.9%	56.9%	18.5%
4 身体障がい(車いす無)	30.1%	26.6%	23.6%	27.4%	14.1%
5 聴覚障がい	7.1%	6.7%	4.9%	4.4%	3.5%
6 視覚障がい	19.9%	10.3%	6.1%	7.1%	7.4%
7 精神障がい	5.9%	6.2%	3.9%	2.2%	2.2%
8 種別不明	29.6%	20.9%	22.4%	22.1%	7.7%
9 参加なし	1.2%	3.2%	2.9%	3.0%	15.2%
10 実施なし	3.0%	2.4%	2.5%	7.2%	17.2%
無回答／わからない	7.1%	17.5%	28.5%	15.8%	33.5%

4 自主事業における意識と取り組みの実態

自主事業において、障がいのある人たちを鑑賞者として想定していますか？（D劇場:ⅢQ2）
障がいのある人に情報を届けるために、取り組んでいることはありますか？（D劇場:ⅢQ4-1）
障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか？（D劇場:ⅢQ6-1）

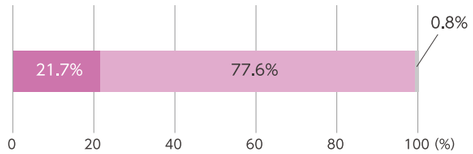
自主事業において、障がいのある人たちを鑑賞者として想定している劇場・文化施設は76.2%（507件）にも上りました。しかしながら、障がいのある人に情報を届ける取り組みや鑑賞サポート付きの公演を実施しているところはいずれも20%前後と、非常に低い結果でした。

自主事業において、障がいのある人たちを鑑賞者として想定していますか？（D劇場:ⅢQ2）
有効回答数：665件



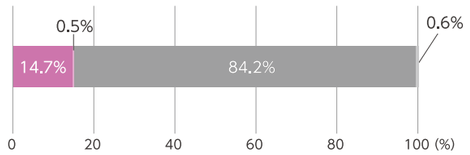
■ はい　■ いいえ
■ 自主事業を実施していない　■ 無回答／わからない

障がいのある人に情報を届けるために、取り組んでいることはありますか？（D劇場:ⅢQ4-1）
有効回答数：665件



■ はい　■ いいえ　■ 無回答／わからない

障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか？（D劇場:ⅢQ6-1）
有効回答数：665件



■ はい　■ 実施していないが、2016年度内に実施予定がある
■ 実績、予定ともない　■ 無回答／わからない

5 劇場・文化施設に求められる取り組み「障がいのある人たちのニーズを把握することが最優先課題」

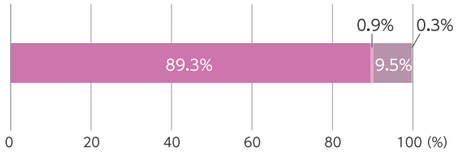
障がいのある人たちは、公演（自主・共催・貸館事業を含む）に鑑賞に来ていますか？（D劇場:ⅢQ1-1）
障がいのある人から、施設の運営や合理的配慮についての要望を受けたことがありますか？〈複数回答可〉（D劇場:VQ1）
障がいのある人が鑑賞に来た時に、対応で困ったことはありますか？（D劇場:ⅢQ1-4）
障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか？（D劇場:VQ2）
貴施設が取り組む障がいのある人たちを対象とした活動は、社会的にどのような効果を生んでいると思いますか？（D劇場:VQ3）

障がいのある人の舞台芸術鑑賞におけるニーズを知るために取り組みを行っている劇場・文化施設はわずか15.0%（100件）と、多くの劇場・文化施設が障がいのある人のニーズを知る取り組みを行っていないことが判明しました。取り組みを行っている劇場・文化施設でも、その内容は「アンケートによる意見収集」が半数以上を占めています。この背景には、「障がいのある人は鑑賞に訪れている。特に対応で困ったこともなければ、要望も上がってきていない」という劇場・文化施設側の偏った認識が潜んでいるように思われます。

障がいのある人たちを対象とした活動について「社会的な効果を特に感じない」という劇場・文化施設が3割強あることは、こうした認識と関係しているかもしれません。

意識
障がいのある人たちは劇場に訪れている

障がいのある人たちは、公演（自主・共催・貸館事業を含む）に鑑賞に来ていますか？（D劇場:ⅢQ1-1）
有効回答数：665件

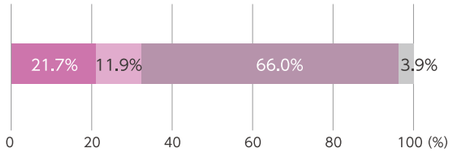


■ はい
■ いいえ
■ わからない
■ 無回答

対応
要望はそれほどあがってこない

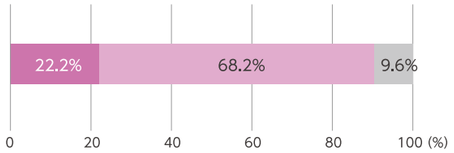
対応でもあまり困っていない

障がいのある人から、施設の運営や合理的配慮についての要望を受けたことがありますか？（D劇場:VQ1）
有効回答数：665件



■ 施設運営に関するもの
■ 合理的配慮に関するもの
■ ない
■ 無回答／わからない

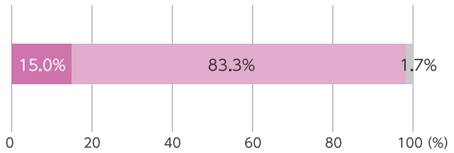
障がいのある人が鑑賞に来た時に、対応で困ったことはありますか？（D劇場:ⅢQ1-4）
有効回答数：594件



■ ある
■ ない
■ 無回答／わからない

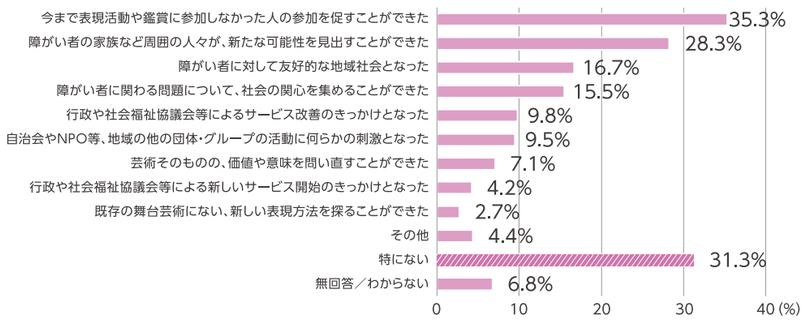
結果
ニーズを知る取り組みを行わない

障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか？（D劇場:VQ2）
有効回答数：665件



■ はい
■ いいえ
■ 無回答／わからない

成果
「特にない」と感じている劇場も多い



貴施設が取り組む障がいのある人たちを対象とした活動は、社会的にどのような効果を生んでいると思いますか？（D劇場:VQ3）
有効回答数：665件

ABCD
調査結果の横断比較

今回の調査対象である、個人（障がい当事者）、福祉施設、実演団体、劇場・文化施設の各調査結果を以下のフェーズに沿い、横断的に比較しました。

意識／計画 → コミュニケーション（情報発信） → 対応 → フォロー／改善 → 成果／インパクト

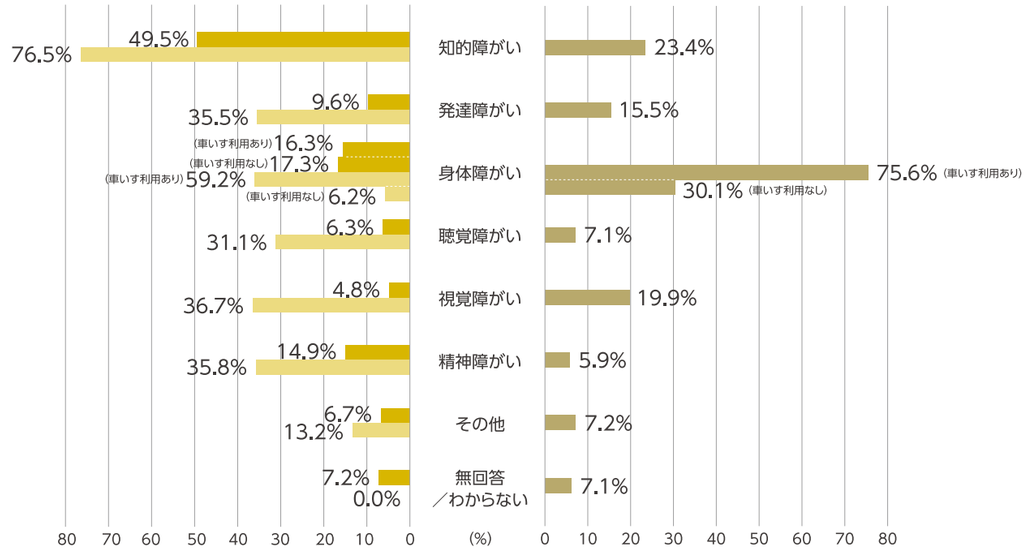
■ 東京藝術大学　特任研究員　村田 博信

1 障がい種別鑑賞状況

意識／計画

障がい種別（A個人:ⅢQ4）
障がいの種類〈複数回答可〉（B福祉施設:IQ3-2）
障がいのある人たちは、公演（自主・共催、貸館事業を含む）に鑑賞に来ていますか。（D劇場:ⅢQ1-1）
どのような障がい種別の人が鑑賞しているかお答えください。〔コンサート公演〕〈複数回答可〉（D劇場:ⅢQ1-2）

鑑賞者の障がい種別の内訳は、個人、福祉施設ともに知的障がいをはじめ様々ですが、劇場・文化施設側が把握している限りでは身体障がい者が突出しており、他の障がい種別はあまり認識されていません。



障がい種別（A個人:ⅢQ4）
障がいの種類（B福祉施設:IQ3-2）

有効回答数：個人208件／福祉施設341件

■ 個人　■ 福祉施設

障がいのある人たちは、公演（自主・共催、貸館事業を含む）に鑑賞に来ていますか？（D劇場:ⅢQ1-1）
どのような障がい種別の人が鑑賞しているかお答えください。〔コンサート公演〕（D劇場:ⅢQ1-2）

有効回答数：594件

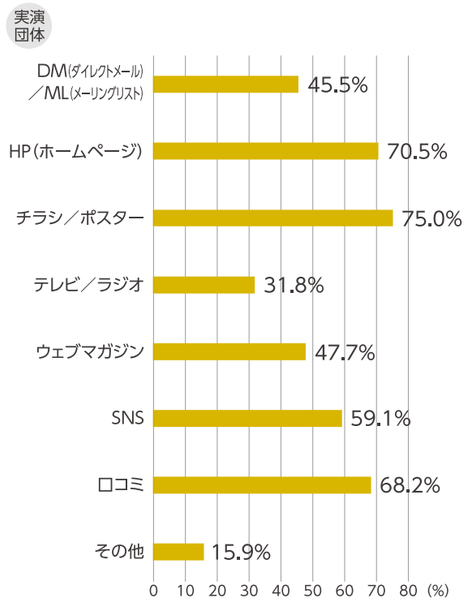
■ 劇場・文化施設

2 情報の受発信

コミュニケーション（情報発信）

活動に関する情報発信の方法を教えてください。〈複数回答可〉（C実演:IQ8）
公演の情報は何で知りましたか？〈複数回答可〉（A個人:ⅡQ6／B福祉施設:ⅢQ4）

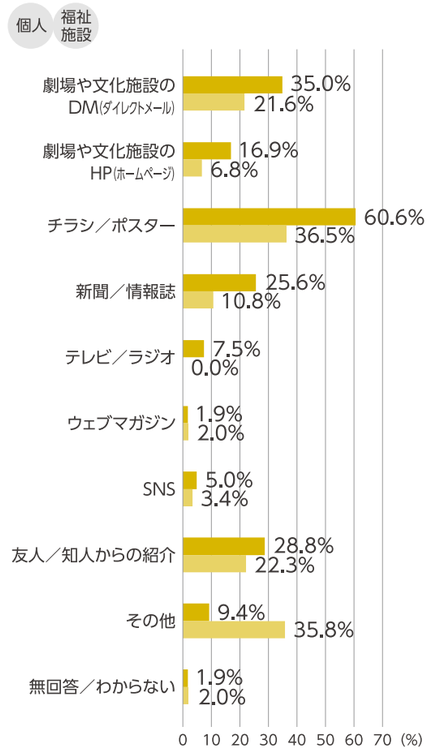
情報の受発信ともにDM（ダイレクトメール）やチラシ・ポスター、知人からの紹介（口コミ）などのアナログな手段が高い割合でした。今後の課題としては実演団体で比較的活用されているウェブマガジンやSNSを、受信側でいかに活用するかが求められてくると思われます。



活動に関する情報発信の方法を教えてください。（C実演:IQ8）

有効回答数：44 件

■ 実演団体



公演の情報は何で知りましたか？（A個人:ⅡQ6／B福祉施設:ⅢQ4）

有効回答数：個人160件／福祉施設148件

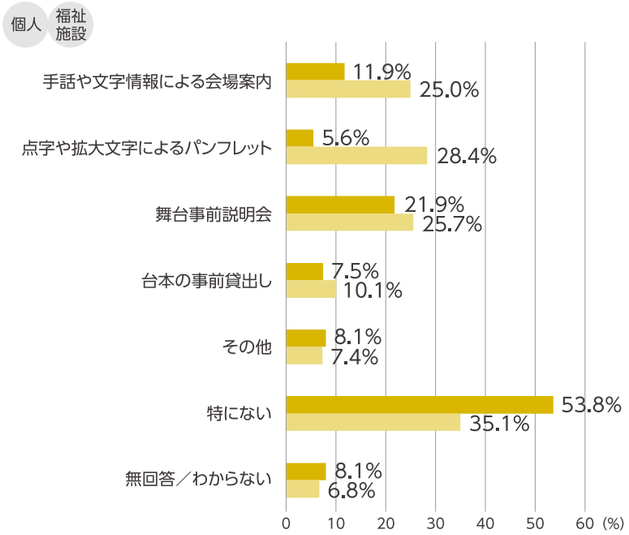
■ 個人　■ 福祉施設

3 劇場・文化施設の対応：上演前のサポート

対応

地域の劇場や文化施設で、どのような対応があれば利用しやすくなりますか？〈複数回答可〉
（A個人:ⅡQ11-3／B福祉施設:ⅢQ9-3）
上演前に障がいのある人への鑑賞サポートをしていますか。（D劇場:ⅢQ9-1）

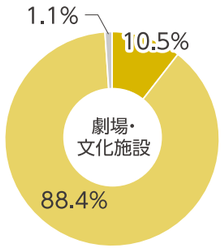
劇場・文化施設に求める上演前のサポートについては、舞台事前説明会や会場案内、パンフレットなどへのニーズがあります。一方で、上演前のサポートを行っている劇場・文化施設は11％程度でした。また、求めるサポートについて「特にない」という回答も見受けられましたが、上演前サポートへの認識不足も一因かもしれません。



地域の劇場や文化施設で、どのような対応があれば利用しやすくなりますか？
（A個人:ⅡQ11-3／B福祉施設:ⅢQ9-3）

有効回答数：個人160件／福祉施設148件

■ 個人 ■ 福祉施設



上演前に障がいのある人への鑑賞サポートをしていますか。（D劇場:ⅢQ9-1）

有効回答数：665件

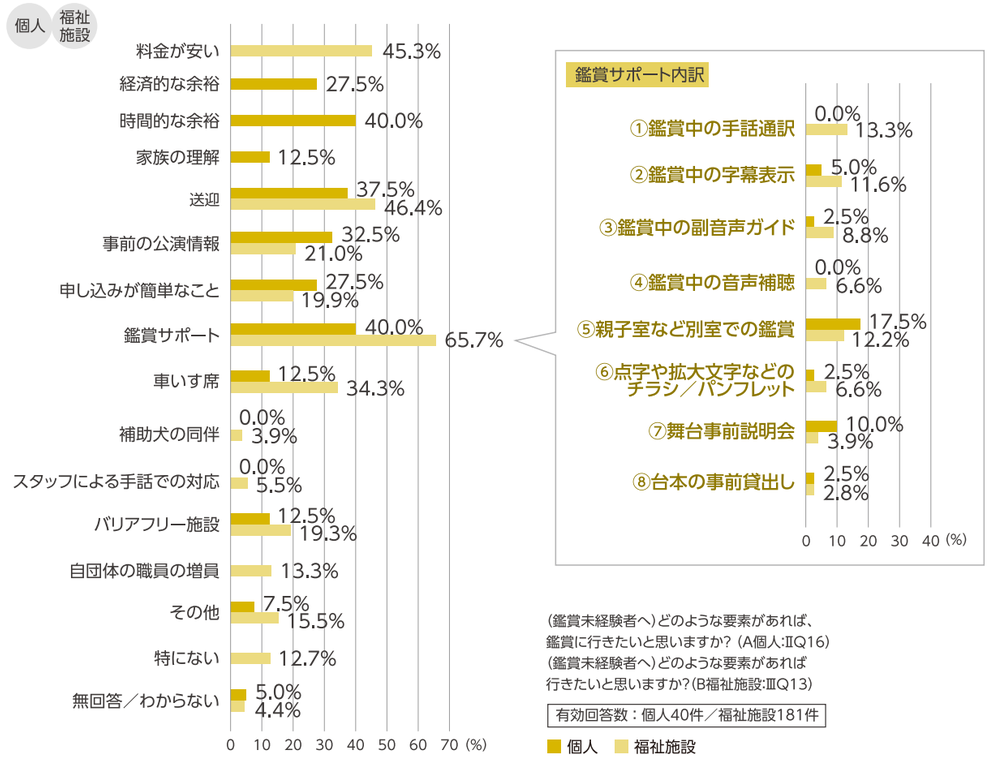
■ はい
■ いいえ
■ 無回答／わからない

4 ニーズの把握状況

フォロー／改善

（鑑賞未経験者へ）どのような要素があれば、鑑賞に行きたいと思いますか？〈複数回答可〉（A個人:ⅡQ16）
（鑑賞未経験者へ）どのような要素があれば行きたいと思いますか？〈複数回答可〉（B福祉施設:ⅢQ13）
障がいのある人のニーズを知るために、何らかの取り組みを行っていますか？（D劇場:ⅤQ2）
障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き公演を実施したことがありますか？（D劇場:ⅢQ6-1）

鑑賞経験者だけでなく鑑賞未経験者の鑑賞を促す要素として、鑑賞サポートをはじめ、送迎や、事前の公演情報、申込みが簡単であることなどが多く挙げられました。一方で、劇場・文化施設側では、ニーズ把握や鑑賞サポートを実施しているのは15.0%にとどまっていました。



（鑑賞未経験者へ）どのような要素があれば、
鑑賞に行きたいと思いますか？（A個人:ⅡQ16）
（鑑賞未経験者へ）どのような要素があれば
行きたいと思いますか？（B福祉施設:ⅢQ13）

有効回答数：個人40件／福祉施設181件

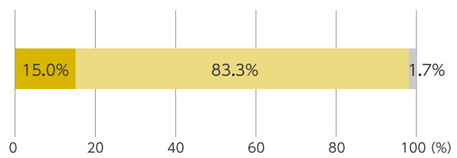
■ 個人 ■ 福祉施設

劇場

障がいのある人のニーズを知るために、
何らかの取り組みを行っていますか？（D劇場:ⅤQ2）

有効回答数：665件

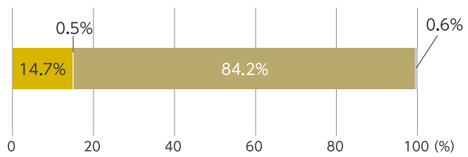
■ はい ■ いいえ ■ 無回答／わからない



障がいのある人への字幕や副音声ガイドなどの鑑賞サポート付き
公演を実施したことがありますか？（D劇場:ⅢQ6-1）

有効回答数：665件

■ はい ■ 実施していないが、2016年度内に実施予定がある
■ 実績、予定ともない ■ 無回答／わからない



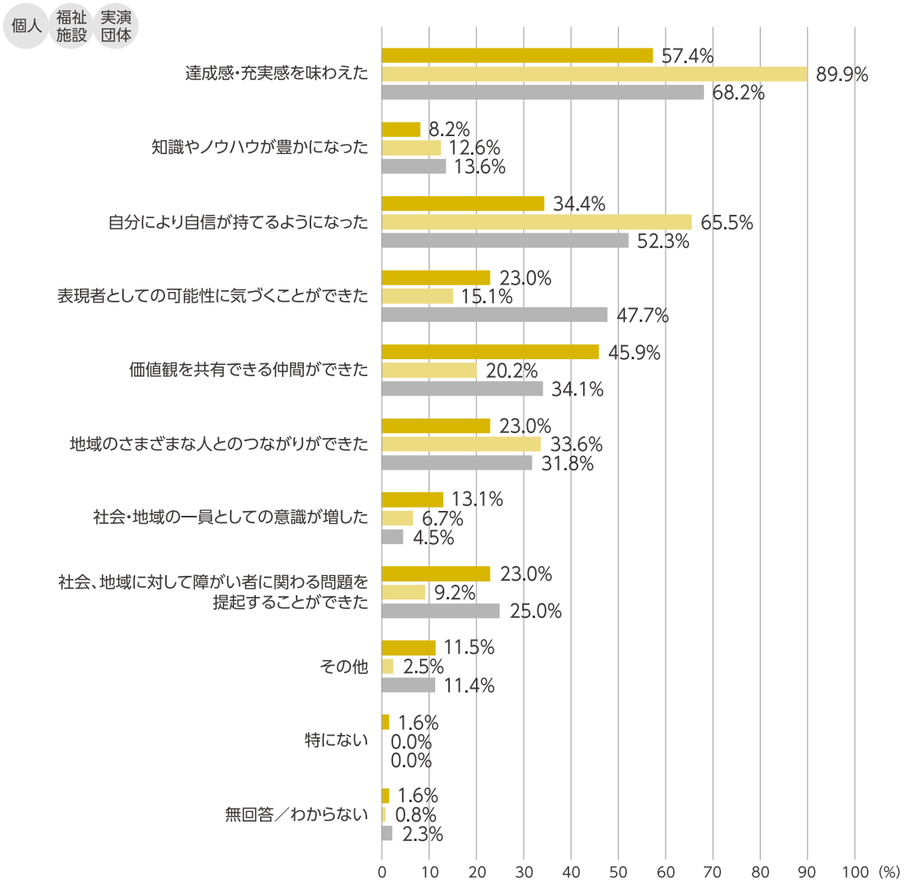
5 表現活動における成果

成果／インパクト

成果1　表現活動を通して 本人が得たもの

あなたは、表現活動を通じてどのようなことを得ましたか？〈3つまで〉（A個人:IQ16）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術の表現活動を通じて、障がいのある参加者が、どのようなことを得たと考えますか？〈3つまで〉（B福祉施設:IIQ13）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動を通じて、障がいのある参加者がどのようなことを得たと考えますか？〈3つまで〉（C実演:IQ11）

参加者本人が得たものとして、個人、福祉施設、実演団体のいずれもがトップは「達成感・充実感」でした。また「自信がもてるようになった」も共通して上位です。一方、個人に特徴的なのは「仲間ができた」、福祉施設に特徴的なのは「地域の人とのつながり」、実演団体に特徴的なのは「表現者としての可能性に気づくことができた」など、それぞれ活動の目的を意識した成果が挙げられました。



あなたは、表現活動を通じてどのようなことを得ましたか？（A個人:IQ16）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術の表現活動を通じて、障がいのある参加者が、どのようなことを得たと考えますか？（B福祉施設:IIQ13）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動を通じて、障がいのある参加者がどのようなことを得たと考えますか？（C実演:IQ11）

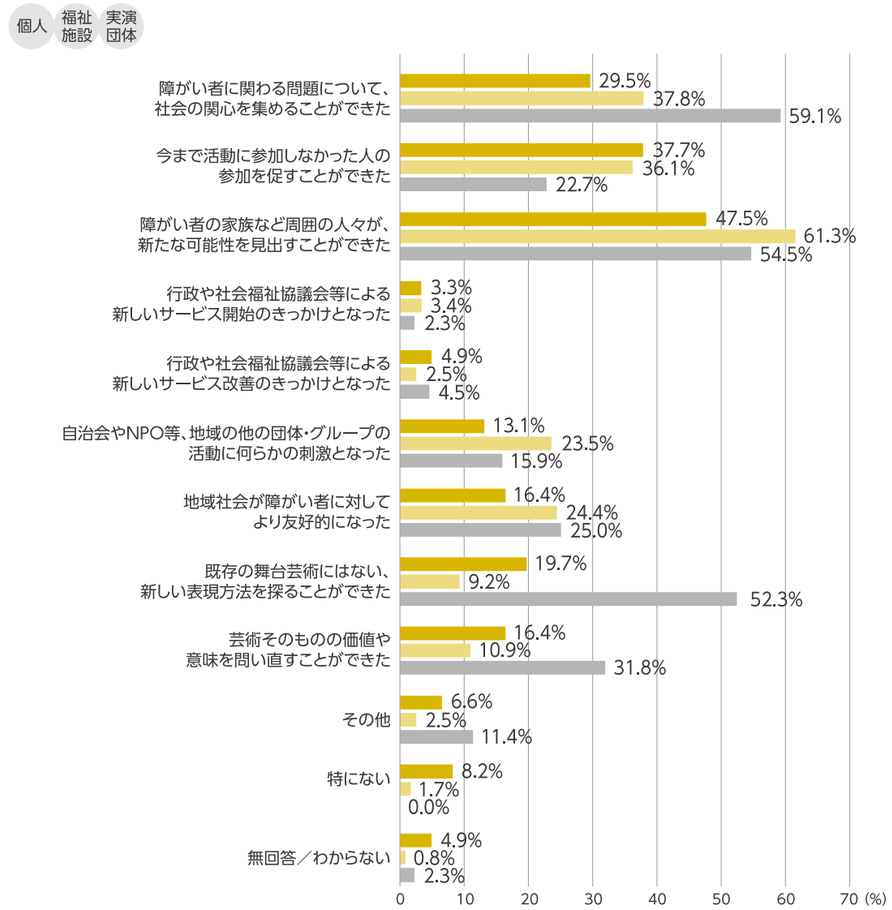
有効回答数：個人61件／福祉施設119件／実演団体44件

■ 個人　■ 福祉施設　■ 実演団体

成果2　表現活動を通して 社会へのインパクト

あなたの表現活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？〈3つまで〉（A個人:IQ17）
貴団体の障がいのある人が参加する舞台芸術の表現活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？〈3つまで〉（B福祉施設:IIQ14）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？〈3つまで〉（C実演:IQ12）

社会へ及ぼしたインパクトとして、個人、福祉施設、実演団体のいずれもが「障がい者の家族など周囲の人々が、新たな可能性を見出すことができた」を2位以内に挙げています。また、「今まで活動に参加しなかった人の参加を促すことができた」なども共通して上位でした。さらに、福祉施設や実演団体の回答からは周囲の家族のみならず地域や芸術自体へのインパクトにも手ごたえを感じていることがわかります。



あなたの表現活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？（A個人:IQ17）
貴団体の障がいのある人が参加する舞台芸術の表現活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？（B福祉施設:IIQ14）
貴団体が行う障がいのある人が参加する舞台芸術活動は、社会的にどのような効果を生んだと考えますか？（C実演:IQ12）

有効回答数：個人61件／福祉施設119件／実演団体44件

■ 個人　■ 福祉施設　■ 実演団体